

情報メディア学科 成績に関する説明

情報メディア学科 教務委員

【全学年向け説明】（留年者含む）

ここでは、情報メディア学科の学生として充実した学修ができるよう、学科のカリキュラム編成の特徴や、それにに向けた必要事項・注意点・その他の留意事項について解説していきます。

1

はじめに・・・

情報メディア学科の特色として、情報メディアに関する様々な分野の教員が集まっています。それぞれが相互に関わることで、各専門分野の枠を超えた発展を目指し、それぞれのスペシャリストとなる人材育成を行っています。

そこで、個々の学生が志望する専門分野の科目だけでなく、関連する幅広い学修ができるようにするため、1本筋ではないカリキュラム構成となっています。

高校までのような、単位修得だけを目標としてしまうと、学科の特色を活かすことはできません。その点を踏まえて解説する内容をご理解下さい。

2

情報メディア学科の特色と研究室

情報メディア学科には、情報メディアに関する様々な分野の研究室があります。

ヒューマンメディア ゲームメディア
ビジュアルメディア サウンドメディア 等・・・

また、それぞれの分野においても、情報技術・制作技術など、研究の方向性も様々であり、研究室ごとに特色があります。

2021年度現在は、16の研究室があり、様々な研究活動を行っています。

情報メディア学科のカリキュラムは、それら研究室とその配属に関連する内容となっています。

3

卒業研究と研究室

4年次には卒業研究を履修します。卒業研究は、学科教員のいずれかの研究室に所属し、研究室の指導教員のもと、1年間かけて研究をします。卒業研究において、所属する研究室が目指す分野の研究室であることはとても重要です。

卒業研究で所属する研究室

卒業研究において所属する研究室は、実質的に3年後期の情報メディア専門ユニットⅡで配属されることとなります。よって、3年生後期開始までには、志望する専門分野の、どの研究室に所属したいかを明確にしておく必要があります。

4

希望する研究室を目指すために

卒業研究において、研究に必要とされる専門の知識や技術は、研究室によって様々です。そこで、志望する専門分野に見合った専門の科目の修得や学修をしておくことが重要です。

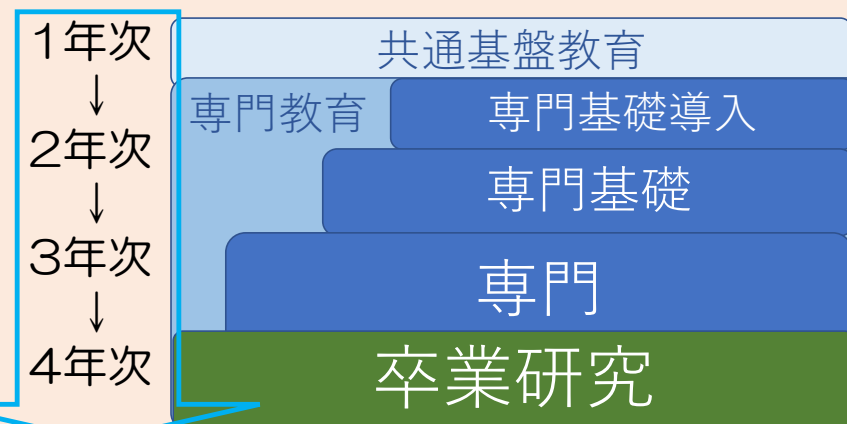
つまり、3年後期までの履修科目の選択や、ユニット科目での演習項目の選択が、研究室配属に対し影響を与えることとなります。目指す専門分野に向けて、各自が吟味して科目を履修していくことが重要です。

それぞれの専門分野に対応する履修推奨科目については、履修要綱のカリキュラムツリーをご確認下さい。

5

カリキュラムの基本

学科ごとのカリキュラムの前段として、大学全体のカリキュラムが存在しています。特に1年次は共通基盤教育科目の必修科目が多いので、落とさないように気を付ける必要があります。



- 1年次は、基礎系の科目がメインとなります。
- 2年次以降は、個々の科目だけでなく、各学年に配置されているユニット科目も、学年が進むと専門性が高くなるようになっていきます。

学年進行に合わせ専門性が高まっていますが、並行して、各学年には、学科ごとのユニットプログラム科目が配置されています。

6

ユニットプログラムについて

ユニットプログラムとは、1～3年次において、各学年に配当されている、実験や調査を含む演習をし、各自の専門性を高め、知識・技術、応用力を身につけるための必修科目です。これらは、卒業研究の研究室配属にも繋がる重要な科目です。

1年次前期：情報メディア基盤ユニット	週3コマ
1年次後期：情報メディア導入ユニット	
2年次前期：情報メディア基礎ユニットⅠ	週2コマ
2年次後期：情報メディア基礎ユニットⅡ	
3年次前期：情報メディア専門ユニットⅠ	週3コマ
3年次後期：情報メディア専門ユニットⅡ	

全ての学年および学期に設置されているため、再履修することになると、同期に2つ以上のユニット受講が必要となります。

7

ユニットプログラムについて

1年次のユニット科目では、情報分野の基礎としてプログラミングを学び、専門分野を選択していくための基礎を身につけます。

2年次前期の「基礎ユニットⅠ」までは、全員一律に受講しますが、後期の「基礎ユニットⅡ」以降は、個々の学生が志望する専門分野の項目に分かれて受講することになります。

3年次後期の「専門ユニットⅡ」では、研究室に配属して卒業研究に向けたプレ卒研を行うこととなります。

※これらを配当年次に単位修得できないと、順当な学修が困難になります。

8

【卒業研究履修の資格】

4年次に卒業研究を履修するには、3年終了時に卒業研究履修の資格をクリアする必要があります。

- 卒業研究に関する科目以外の必修科目の単位を全て修得していること
- 104単位以上、単位を修得していること

ルールそのものは、非常に単純です。順当に必要な単位を修得していけば、特に問題となることはありません。

しかし、3年前期終了時までで必修科目の取りこぼしや、単位数が大きくなり足りない場合（89単位以上が目安）、卒業研究の研究室配属対象とはならないため注意が必要です。

9

科目で不合格にならないためには

高校までと違い、大学では科目ごとに担当する教員が別々であり、クラス担任も直接科目に関わることはありません。よって、科目ごとの注意事項や必須事項など、各自が自覚・認識して授業に取り組む姿勢が必要です。それが無いと、本人にそのつもりがなくても不合格となってしまう場合が発生します。そうならないための要点は以下の通りです。

◇指示や、提示する注意事項・必須事項を正確に把握する

自分だけの判断で、指示と違う内容に力を注いでも不合格になります。もしそれらが不明瞭であるなら、必ずその担当教員に問い合わせや質問をして解決して取り組みましょう。

10

科目で不合格にならないためには

◇全ての回の授業に出席する

特に演習系の授業は、積み上げ式で順を追ってスキルアップしていく授業内容となっているため、休んでしまうについて行けなくなる可能性が高いです。もし、やむを得ず欠席してしまった場合には、その分を次週までに挽回しておくことも重要です。

◇提出物は必ず提出する

提出物が1つでも未提出の場合、不合格となる科目は多数あります。指示と違った内容で提出しても同様です。また、提出期限が守れない、提出方法の理解不足や提出ミスも多く、これらも減点対象となる場合が殆どです。

11

科目で不合格にならないためには

近年、口頭や配布資料による指示や注意事項を取りこぼし、成績に影響を与えてしまうケースが多くなっています。このことは、前述した3つのことへも大きく影響しています。

大学の授業は、科目教員が大勢を担当することも多く、「あとで聞き直す」ことが困難な形態です。そのため各自が、資料の読解や、授業中の集中力の必要性について、理解を高めなければなりません。

特にコロナ過において、日常の生活パターンが狂い易く、授業時間中や授業に対する集中力が下がる要因が多くなっていると思われます。是非、授業に対して意識を持って取り組むよう心掛けをお願いします。

12

授業の欠席連絡や質問について

コロナ禍ということもあり、対面授業に対する当日の体調不良の欠席についての連絡が、教務課や学生課に多く寄せられています。しかし欠席時の対応内容は個々の科目によって違い、教務課や学生課、クラス担任などは、それらを把握してはいません。もし、授業内容について連絡が必要と思われる場合は、それぞれの科目の担当教員へ、直接メールなどで相談して下さい。

また、欠席連絡の有無に関わらず、演習科目など、以降の授業についていくために必要な事項については、その学生による挽回が必須となります。

コロナ感染やインフルエンザなど、欠席の理由が憂慮される理由の場合は、学生課へ届け出をすることで、憂慮される対応を受けられることとなります。

情報発信について

昨年度と同様、コロナ禍の状況が続いているため、大学や学科、個々の科目などからの情報は、基本的にmanaba等のオンラインでの提供となります。manaba上の学科掲示板や学年ごとの掲示板、科目のコースなどを小まめにチェックし、重要な情報の取りこぼしが無いように、十分気を付けて下さい。

各授業の連絡は、授業開始前にmanabaで行われます。特に学期初めには各授業の進め方などの重要な連絡が多く、取りこぼすと、後の授業に大きく影響すること多いため、必ずチェックして下さい。なお、manabaに掲示されるタイミングは教員の事情によっても変わります。こまめにチェックすることが必要です。

情報発信について

学籍番号のメールアドレスも、重要な情報伝達ツールとなっています。こちらもしっかりと読み落としの無いよう気を付けて下さい。

現在学生には、@kait.jp、@cco.kanagawa-it.ac.jp、cce.kanagawa-it.ac.jpの3種類のアカウントが大学から与えられています。これは、ここ数年における大学のシステムの変更や改善によりできてしまったものです。そのため、現在少々混乱していますが、下記の運用を推奨しています。

- ◇@kait.jpは認証システムのために準備したため、メール発信機能は利用せず、@cco.kanagawa-it.ac.jpからのメール発信を推奨しています。
- ◇@cce.kanagawa-it.ac.jpは大きなファイルの送受信ができないため、現在利用を推奨していません。

15

履修修正について

後期開始時に、後期科目履修修正期間があります。

9月17日(金)～30日(木)

- 必修科目であっても、履修登録していなければ、受講しても単位取得できません。
- 履修する科目は個々に違うため、必ず自分でチェックする必要があります。
- 必修科目の再履修がある科目は、それを優先して登録変更をしましょう。
- CAP制度に照らし合わせ、単位数を確認して登録することも必要です。

なお、10月18日(月)～27日(水)には、履修キャンセル期間がありますが、ここでは追加の履修登録はできません。追加で履修が必要な場合は、履修修正期間に登録して下さい。

16

資格取得と単位認定について

資格は実社会に出てからも活かすことのできるものです。特に、情報学部における情報系の資格や、情報メディア学科における情報メディア系の資格を取得していると、就職活動で有利に働きます。そのため、資格取得を考えているのであれば、3年前期までに取得しておくことで就職活動に活かします。

また、大学では資格取得を支援しており、合格した資格の受験料の給付や、大学が認めた資格についての単位認定をしています。（詳細はKaitWalkerを参照して下さい）

単位認定を希望する場合、申請期間内に届け出が必要です。合格証が間に合わない場合は、次年度の認定となります。今年度の申請期間は、2月12日までとなっています。

17

ここから先は、

4年次（卒業研究着手者）
の詳細説明

となります。

18

4年次の注意事項

大学生活も残すところ数か月となります。しかし例年、単位取得や卒業研究の進行状況など、必ずしも順当ではない学生が見受けられるようになる時期でもあります。具体的には、「卒業要件」「卒業研究の進行状況」「就職活動」について、状況をこまめに確認していただくことが重要です。

例えば

- ・卒業要件には問題無いが、卒業研究が進んでいない
 - ・卒業研究は順当に進んでいるが、卒業要件を充足できない
- そうすると

- ・就職内定が出ていても、卒業ができない

となりかねません。内定を貰って安心してしまい、卒業するために必要なことへの意識が下がってしまう学生もいるため、今一度の確認が必要です。

19

卒業要件

4年終了時に卒業するためには、卒業要件をクリアする必要があります。卒業研究履修の資格をクリアして卒業研究を履修するだけでは、卒業要件を充足することはできません。

- ・卒業研究に関する科目以外に116単位以上、単位を取得する必要があります。
- ・英語科目など、共通基盤の科目の必要単位数もクリアしなければなりません。（履修要綱を参照）

※ この条件をクリアできていない場合、4年次に卒業研究を修了できても、卒業できず留年となります。

もし、まだ卒業研究以外の卒業要件をクリアするために必要な科目や条件が残っている場合、後期の履修登録で失敗すると留年に直結します。

20

卒業研究

卒業研究では、1月に卒業論文の提出と研究発表による審査が予定されています。この先、それらに向けて追い込みが必要になってくる場面も出てくるかと思えます。

卒業研究は指導教員以外の、学科所属の教員による審査によって合否が決められます。学生個人の思い込んだ基準で研究を完了しても、不合格となることも十分考えられます。研究の進め方は個々に違いますが、指導教員は審査に合格するために指導に力を注いでいます。審査に合格するためには、指導教員との意思疎通や指導に対する十分な取り組みが不可欠です。特にこの先の期間に指導教員と音信不通になることは、不合格に直結します。家族間でも状況を共有し、気にかけて下さい。

就職活動

大学では学生の将来に向け、無事に就職できるよう、キャリア就職課を中心に様々な取り組みを行っています。就職活動の早期化のため活動期間の長期化もあり、就職活動への意識が高まっています。その弊害として、学業への意識が薄れたり、内定を獲得できず精神的に疲弊してしまう学生も見受けられます。

また、前述したように、内定獲得後に安心してしまい、学業への意識が薄れてしまう学生も見受けられます。しかし、卒業要件をクリアできなければ卒業することはできません。内定を獲得していても留年してしまう事例も毎年数名発生しています。教員もそういったことへの配慮をしていますが、事情や状況は個人ごとに様々で、全てに対処することはできません。是非、家族間で状況や事情を把握し、不慮の事態に陥らないよう注意して下さい。

以上となりますが、教務課による

教務関係について

も、成績表の見方など、大学全体に向けて説明がありますので、併せてご確認ください。

情報メディア学科
教務委員